７．そ　の　他

事業名	GPS波浪計を活用した沖合波浪（津波）観測網の整備（直轄）

事業着手：平成18年度	完成・供用の目標年度：平成22年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

「事業の必要性」

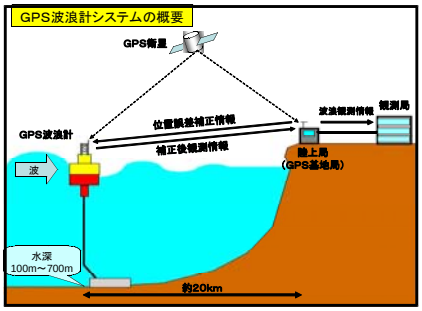
近年、異常気象等による高波被害が頻発していることから、港湾整備においては波浪条件の精度を高め、設計、施工の更なる効率化を推進するために、沖合での、より正確な波浪観測網の高質化が必要となっています。

GPS波浪計は、リアルタイムでの波浪観測が可能であることから、津波観測にも活用が期待されています。東北地方は過去に幾度となく津波の被害に見舞われ、尊い人命・財産が失われており、津波情報の早期把握や情報伝達などが地域の課題となっています。また、人口や産業が集積する臨海部においては、非常時の物流機能と背後地域の安全と安心を確保する必要があります。特に、切迫する宮城県沖地震や、過去に大災害をもたらしている三陸沖を震源とする地震による津波に対しては、湾口防波堤や防潮堤等の整備のみならず、津波観測情報の高度化が求められていることから、観測情報の的確な伝達・提供により、津波災害における予防対策、発災後対策及び津波防災技術向上等の津波防災業務への活用を図ります。

「事業の概要」

GPS波浪計を用いて、港湾整備に必要な海象情報を取得し、沖合波浪情報を収集・分析・提供します。

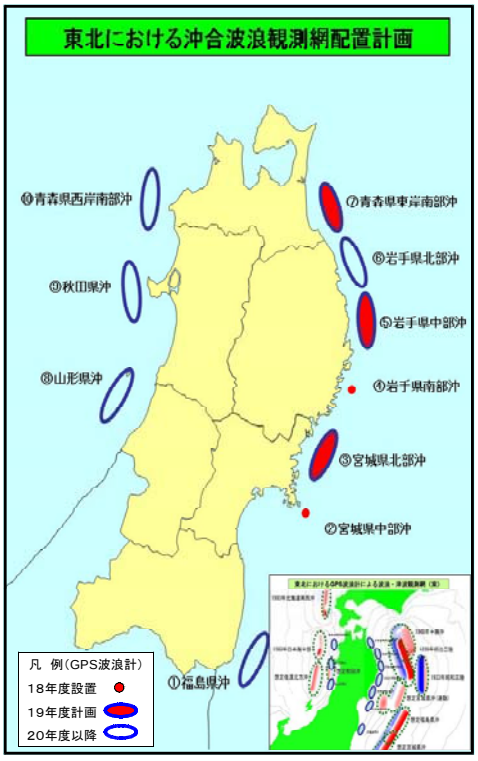
地震・津波発生時には、津波情報を港湾沿岸域への津波到達の数分から10分程度前に観測して、関係機関等と連携することにより、港湾を含む沿岸域での津波防災における迅速な対応に活用できます。



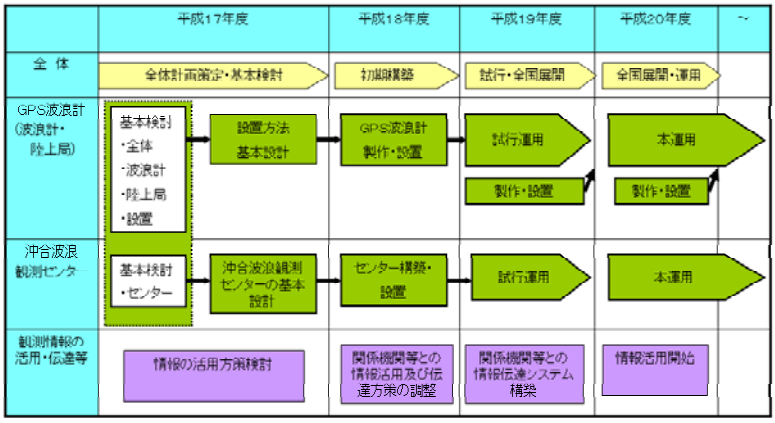
▲波浪（津波）観測のイメージ



▲全国初のGPS波浪計の設置
（宮城県中部沖；H19.3.22）



▲沖合波浪観測網配置（案）



▲沖合波浪観測網の整備・活用スケジュール

平成20年度の予定

○平成20年度は、観測網の本格運用を開始するとともに、沿岸での観測情報との共有化システムを構築し、防災業務実施機関への情報提供を図ります。

事　業　効　果

○波浪観測データの精度を高めることにより、港湾施設の効率的な設計、施工が可能となります。
○沖合波浪（津波）観測情報と既存の津波・潮位観測情報を共有化することで、広域的な津波観測情報を得ることができ、津波防災力向上を図ることが可能となります。

強い東北の創造　地域間の交流・連携の強化、広域的な生活圏の形成

事業名	格子状骨格道路ネットワーク事業 （東北６県）

事業の必要性・事業の概要

「事業の概要」

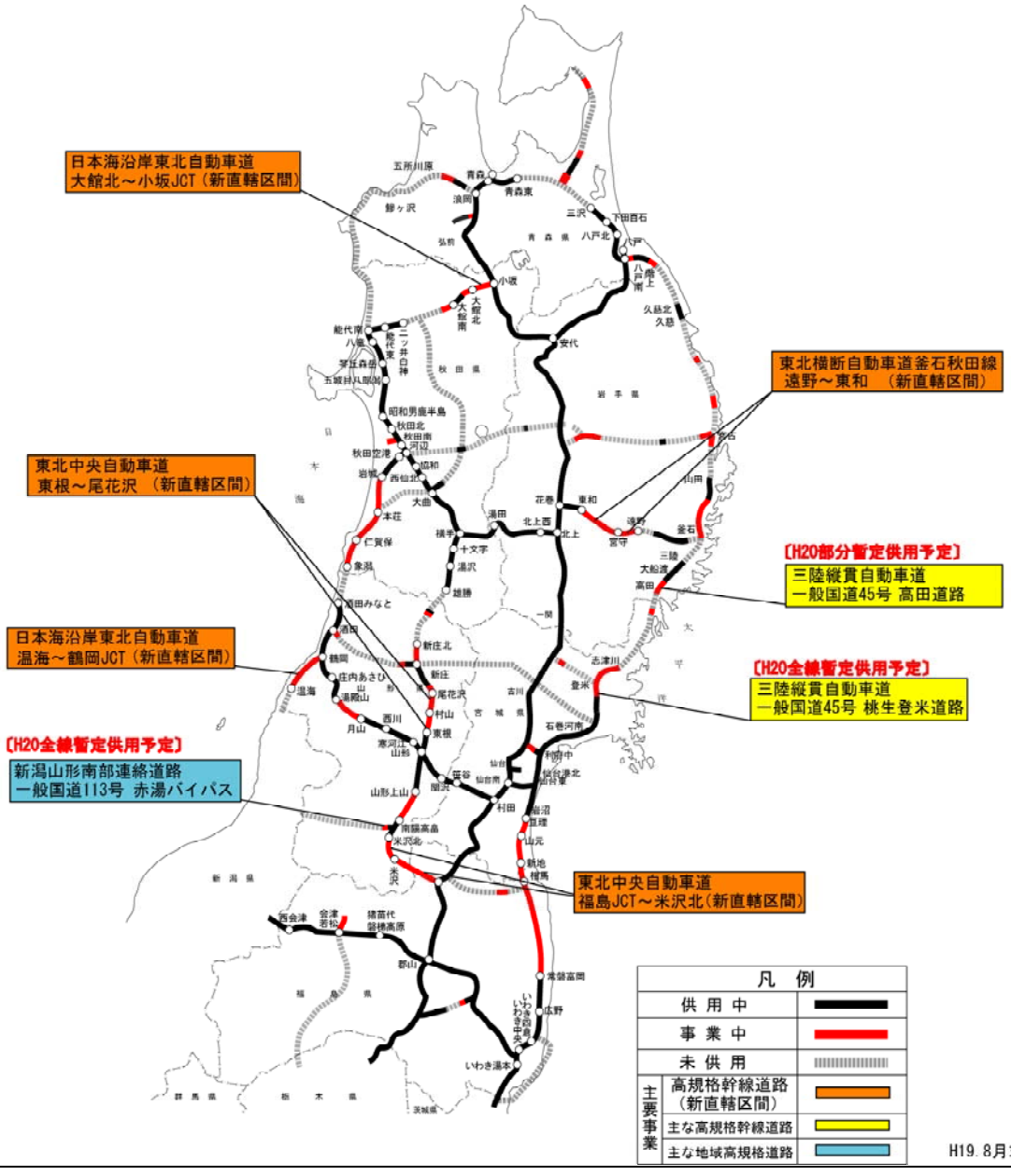
都市間距離と峠と雪を克服し、広域的な交流・連携を促進するとともに、都市と周辺市町村との連携による新しい地域間のつながりを支援するため、高規格幹線道路と地域高規格道路による4本の南北軸、7本の東西軸で構成される格子状骨格道路ネットワークについて、投資効果を最大限に発揮できるよう重点的かつ効率的に整備を進めます。また、新直轄方式の高速自動車国道（3路線7区間）について、引き続き事業・調査を進めます。

【単位：km】

		全体計画	H18末まで	H19末まで	H20末まで
高規格幹線道路	全国	14，000	9，073	9，325	－
	東北	2，204	1，411(64%)	1，485(67%)	1，498(68%)
地域高規格道路	全国	6，950	1，729	－	－
	東北	660	89(13%)	94(14%)	105(16%)

※（）内は全体計画に対する供用延長の割合

［東北地方における自動車専用道路ネットワーク］



事業名	みなとオアシス制度の推進 （福島県いわき市　他　認定箇所）

事業着手：平成17年度

事業の必要性・事業の概要

「事業の必要性」

みなとは古くから「ひと」や「もの」が行き交う交流の拠点として生活・産業を支え賑わってきましたが、近年に至り経済活動の拠点としての色合いが強くなり、人々が近寄りがたい空間となっていることが少なくありません。そのような「みなと」において地域住民の声を反映した、人々が憩い、賑わい、潤える空間が今、必要とされています。

「事業の概要」

「みなとオアシス制度」は、交流施設、旅客ターミナル、緑地、マリーナ等のみなとの施設や地域と、住民参加による地域振興につながる取り組みを「みなとオアシス」として認定することで、みなとに「憩い」、「安らぎ」、「交流」、「潤い」、「賑わい」を創出し、みなとを核とした住民主体の地域づくりを、ホームページや広報誌への掲載、各種イベント等で積極的にPRする等の支援を行います。

平成17年度に認定された「いわき小名浜みなとオアシス」においては、小名浜港の東西に位置し、東側は1・2号埠頭地区、西側は剣浜地区と呼ばれ、1・2号埠頭地区には、いわき市の観光と物産を一堂に会する「いわき・ら・ら・ミュウ」、全館をガラスで覆った斬新なデザインの環境水族館「アクアマリンふくしま」、この両施設を結ぶ親水空間「アクアマリンパーク」があり、西側の剣浜地区には、いわき市のマリンレジャーの拠点となっている「いわきサンマリーナ」があります。特に1・2号埠頭地区ではフリーマーケットなど様々なイベントが行われ、多くの人が集まる憩いの場になっております。

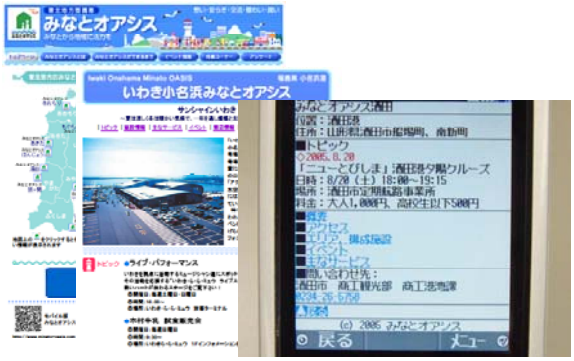
▼おなはま海遊祭



▼いわき小名浜みなとオアシス認定エリア



▼パソコン、携帯電話対応HPによるPR
（季節毎のイベント開催等タイムリーな情報提供）
【http://www.minato-oasis.com】



▼ポスター、パンフレットによる紹介



平成20年度の予定

○平成20年度は、新たなエリアを募ると共に、認定エリアの支援を推進します。

事　業　効　果

○人々が憩い、賑わい、潤える空間を十分に活用することによって、地域の活性化が図られます。